

**KAWAI**  
もっと伝えたい、感動を。



# 環境社会報告書2008

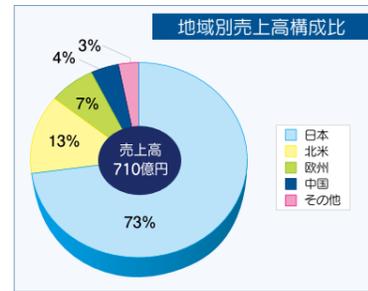
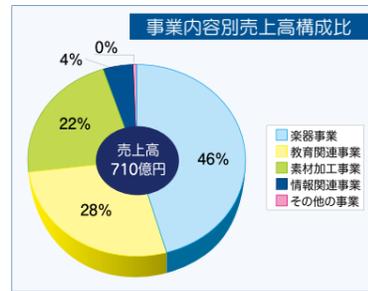
株式会社 河合楽器製作所

社名 株式会社河合楽器製作所  
 本社 静岡県浜松市中区寺島町200番地  
 創立 1927年(昭和2年)8月9日  
 代表者 代表取締役社長 河合弘隆  
 資本金 66億円(2007年3月末現在)

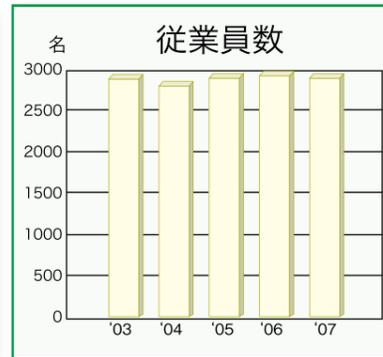
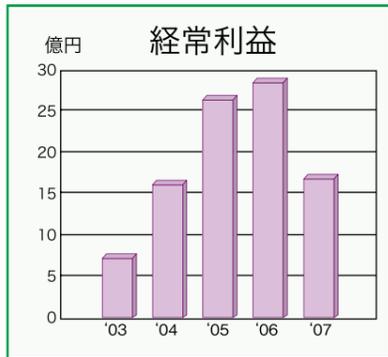
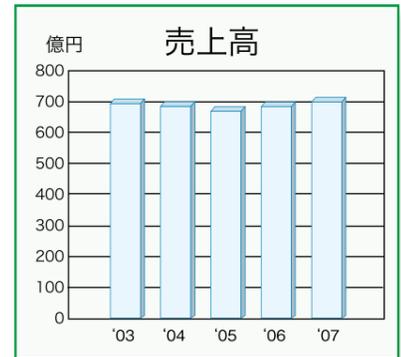
売上高	年度	2005年度	2006年度	2007年度
	単独(百万円)	57,104	59,554	61,308
連結(百万円)	66,776	68,234	71,029	

従業員数	年度	2005年度	2006年度	2007年度
	単独(名)	2,039	1,955	1,878
連結(名)	2,889	2,916	2,888	



カワイグループ 連結子会社 17社  
 持分法適用子会社 4社



## 当社グループの主な事業

### 楽器事業

ピアノ、電子楽器、楽器付属品、楽器玩具の販売及び楽器調律・修理の役務提供業務

#### 国内での販売

全国直営店・販売代理店  
 (株)ディアパソン 他

#### 海外での販売

カワイアメリカコーポレーション  
 カワイヨーロッパGmbH  
 カワイカナダミュージックLtd.  
 カワイオーストラリアPTY.Ltd.  
 河合貿易(上海)有限公司  
 カワイ英国Ltd.  
 カワイオランダB.V  
 海外販売代理店及び商社

#### 楽器の調律・修理

調律サービス部

#### 楽器の保管・配送

国内営業本部 物流室

#### 楽器の国内での製造

(株)河合楽器製作所 竜洋工場  
 メルヘン楽器(株)

#### 楽器の海外での製造

ミディミュージックセンターInc.  
 PT.カワイインドネシア  
 河合楽器(寧波)有限公司



### 教育関連事業

音楽教室・体育教室の運営、教材販売・楽譜・音楽教育用ソフトの製造及び販売



### 素材加工事業

電子電気部品用材料、自動車部品用材料、防音室、音響部材の製造及び販売

金属異形圧延加工品の製造 カワイ精密金属(株)  
 自動車部品用材料の製造 (株)カワイハイパーウッド  
 防音室・音響部材の販売 (株)カワイ音響システム



### 情報関連事業

OA機器の販売修理及びソフトの販売、情報処理事務サービス事業  
 (株)カワイビジネスソフトウェア

### その他事業

金融関連事業、保険代理店事業等 (株)カワイアシスト

## 内容

カワイグループにおける環境活動側面に加え2003年版からはコンプライアンス等社会的側面を掲載し企業における社会的責任の視点を充実させ2004年からタイトルも「環境報告書」から「環境社会報告書」に変更いたしました。

なお経済側面につきましては概要を左頁に、経営計画等を「社会性報告」の中へ記載し、カワイのマネジメントへの取組みを報告しました。経済側面の詳細につきましては当社ホームページや「有価証券報告書」をご参照願います。

## 対象

お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地域住民・NGO、行政・国際機関など多様なステークホルダーの皆さまを対象としています。

## 2008年版について

- ・2007年は創立80周年にあたり、80周年に関する内容を「80周年記念」として記載しました。
- ・出来得る限り各項目ごとに方針(ポリシー)を記述し、皆さまにカワイの取組みをわかりやすく伝えるように努めました。
- ・事業活動に伴う環境配慮については環境側面ごとにまとめました。
- ・関連資料は資料編にまとめました。
- ・記載内容の信頼性確保のため環境省のガイドラインを参考にして、自己評価を実施しました。

## 報告対象期間

- ・2007年度(2007年4月～2008年3月)を主体としていますが、一部重要な事項については2008年4月以降の最新情報も含んでいます。
- ・集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。

## 報告対象組織

- ・(株)河合楽器製作所 本社/竜洋工場・舞阪事業所
- ・メルヘン楽器(株)
- ・(株)カワイハイパーウッド
- ・カワイ精密金属(株) 本社・浜松工場/松本工場

## 目次

	ページ
カワイグループの事業と会社の概要	1
編集方針	2
社長コミットメント	3
カワイの経営の理念・行動指針	
カワイグループのあゆみ	4
◎創立80周年記念報告	
創立80周年記念	
コーポレート・デザインの刷新について	5
創立80周年記念行事	
◎環境報告	
カワイの環境への取組	7
地球環境憲章/環境方針/環境推進組織	
2007年度の環境目標と実績及び目的	8
事業活動に伴う環境配慮	
温暖化対策	9
廃棄・再資源化	11
グリーン調達	13
環境配慮製品	14
環境パフォーマンス	
マテリアルバランス	15
◎社会性報告	
経営計画	17
コーポレート・ガバナンス	19
株主・投資家の皆様とともに	21
組織で働く全ての人との関係	22
お客様との関係	23
社会貢献活動	
コミュニケーション	
地域社会への参画	25
情報発信	27
◎資料編	
資料	
環境負荷サイト別一覧	28
第三者意見	29
2008年度アンケートのお願い	30

カワイホームページアドレス	
カワイホームページ	http://www.kawai.co.jp/
環境への取り組み	http://www.kawai.co.jp/company/activity/ambience.asp
IRサイト	http://www.kawai.co.jp/ir/
防音室ホームページ	http://www.kawai-os.co.jp/
健康事業	http://www.kawai.co.jp/kenkou/
文化貢献事業	http://www.kawai.co.jp/company/activity/culture.asp
教育事業	http://www.kawai.co.jp/school/
カワイ音楽教室	http://www.kawai.co.jp/school/music/

## 新しい10年に向けた第一歩。

昨年は、1927年創業の当社にとって80周年という記念すべき年でありました。今年はその感動と興奮を持って新たな気持ちで新しい10年に向け第一歩を踏み出しました。しかし、欧米の老舗メーカーに見られますように、ピアノブランドの確立は100年事業であり、我々もカワイブランドの確立に向けて更なる精進をしまっている所存であります。

現在、当社グループは、2007年4月より①経営構造の革新②持続可能な成長③恒常的な利益確保を基本方針とした「第2次中期経営計画」(2007年4月～2010年3月)に取り組んでおります。2007年度は、本計画の初年度にあたり、売上高においては計画を上回りましたが、利益面では計画達成に至りませんでした。しかし、同計画で掲げました戦略に基づく諸施策につきましては、ほぼ計画どおりに推移しております。

当社の本業であります楽器事業とともに大きな柱として育ててまいりました金属、塗装、体育といった事業およびその他の事業もこれからのカワイの大きな力になってくれると確信しています。こうしていくつかの柱の成長と本業とのコラボレーションにより、安定した収益基盤を築き、次の時代に備えて行こうと考えております。

また、当社は社会貢献活動の一環として様々な音楽普及活動を展開しております。国内5000箇所以上に及ぶ音楽教室運営を通じた教育活動や、多くの音楽愛好者に、より身近に本物の音楽に触れていただくことを目的に延べ2000回を超えるカワイコンサートを開催して参りました。このほかにも今年41回を迎えたカワイ音楽コンクール、さらに上級者を対象に8月にはカワイ表参道にて今年6回

を迎えたロシアン・ピアノスクールを開催いたしました。また、毎年各地において音楽指導者を対象にカワイ音楽教育シンポジウムを開催し、教育指導方法の研究も行ってまいります。

こうした一つ一つの活動を、生きた活動として有機的に結び付けることにより、音楽界に対してさらなる貢献ができるものと確信しております。これらの活動を通じて、いつの日か音楽界の頂点に立つような音楽家や演奏家を育てることができたらと願っております。

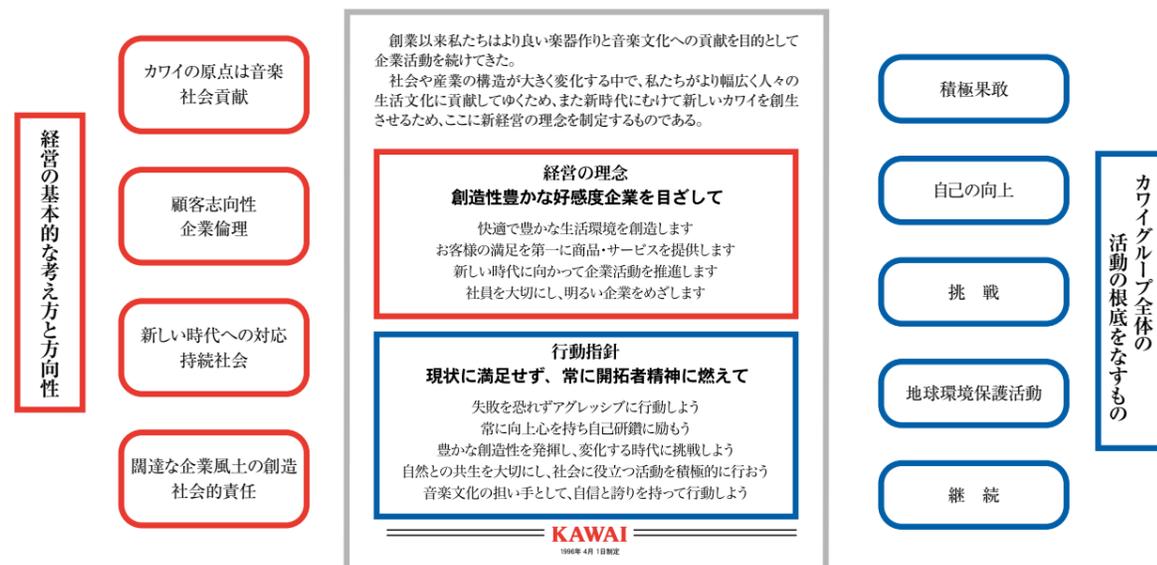
今後とも皆様には当社の活動へのご理解とご協力をいただけますようお願いするとともに、この環境社会報告書がステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとなれば幸いに存じます。

どうぞ忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。



取締役社長  
**河合弘隆**

### カワイの経営の理念・行動指針



## 創立80周年のカワイの事業沿革と環境への取り組みの歴史を記載しました。

事業沿革	環境活動
1927 河合小市 河合楽器研究所を創立 ピアノの製造・販売を開始	1920
1929 河合楽器製作所と改称	1950
1935 合名会社河合楽器製作所と改組	1960
1951 株式会社河合楽器製作所と改組	1967 カワイ体育教室を創設
1955 河合小市 逝去 河合滋 社長に就任	1975 生産技術部内に公害課設置 カワイの環境元年
1956 カワイ音楽教室を創設	1978 生産本部 環境管理課に改めグループ全体の管理をスタート
1961 ピアノ組立工場として舞阪工場完成	1980 『森の中の緑の工房』竜洋工場完成
1963 アメリカにカワイアメリカコーポレーションを設立	1980 公害防止の時代
1966 カワイ音楽教室中央講師養成所 (現カワイ音楽学園)を創設	1994 地球環境憲章制定 シンボルマーク決定
1967 カワイ体育教室を創設	1994 全社的な推進組織の地球環境委員会発足
1976 西ドイツにカワイドイツランド GmbH を設立	1996 環境推進室 に名称変更
1979 西ドイツにカワイヨーロッパ GmbH を設立	1997 竜洋工場で ISO14001 認証取得 楽器業界で世界初
1980 金属圧延加工のカワイ精密金属㈱を設立	1997 舞阪工場「静岡県労働基準局長 優良賞」受賞
1980 『森の中の緑の工房』竜洋工場完成	1998 舞阪工場で ISO14001 認証取得
1981 オーストラリアにカワイオーストラリア PTY.Ltd. 設立	1998 竜洋工場「エネルギー管理優良工場」として 中部通商産業局長表彰
1984 ㈱カワイビジネスソフトウェア設立	1999 メルヘン楽器で ISO14001 認証取得
1988 アメリカにメディアミュージックセンター Inc. を設立	2000 環境保全の時代
1989 河合弘隆 社長に就任	2001 タイプIII環境ラベル「製品環境宣言」JEMAI 開示
1991 マレーシアにカワイアジア マニュファクチャリング SDN.BHD を設立	2001 舞阪工場「危険物優良事業所」表彰
1996 新経営の理念、行動指針制定	2002 環境経営学会「環境経営格付」評価
1997 カワイ精密金属㈱浜松事業所 ISO9002 認証取得	2002 工場統廃合によるインフラの整備
1998 ㈱カワイハイパーウッド設立	2003 木屑ボイラーの廃止
2001 インドネシアに PT.カワイインドネシア を設立	2005 竜洋工場が緑化優良工場として 「勲日本緑化センター会長奨励賞 受賞」
2002 中国に河合貿易(上海)有限公司を設立	2006 河合楽器が静岡県緑化推進協会から 「緑の募金」の感謝状
2002 カワイ倫理規範、倫理行動規準制定	2007 カワイハイパーウッドでエコアクション21 認証取得 「カワイの森」インドネシア植林事業開始
2004 中国に河合楽器(寧波)有限公司を設立	2008 産業廃棄物適正処理推進功労者に対する 静岡県知事褒賞 受賞
2005 竜洋工場 ISO9001 認証取得	
2007 創立80周年 電子ピアノ組立を行うカワイインドネシア第3工場設置 中国上海市内にカワイ音楽教室第1号教室開設	

創立80周年を迎えるにあたり、企業ブランド認知度とブランドイメージのさらなる向上を図るため、社名ロゴマークの一新を初めとしたコーポレートデザインを刷新しました。

## ■社名ロゴマークの一新

当社が経営の理念として掲げている「創造性豊かな好感度企業をめざして…」の具現化を図り、従来のロゴマークに対して、よりスリムで軽快なデザインを採用し、親近感のある明るい企業をめざすものとなりました。

株式会社 **河合楽器製作所**  
KAWAI MUSICAL INSTRUMENTS MFG. CO., LTD.

# KAWAI

もっと伝えたい、感動を。

## ■ブランドプロミス、コーポレート・スローガンの制定

ブランドプロミスとは「KAWAI」ブランドの約束として、「提供する価値を明確にする綱領」であり、社員個人個人が共通して持つ価値観の拠り所となるものです。当社の様々な事業活動に一貫した方向性を与え、ステークホルダーに対して当社の基本理念を明確に伝えてまいります。さらにブランドプロミスを簡潔に表現するためコーポレート・スローガンを決めました。

### ブランドプロミス

私たちは、音楽を通じて、感動と満足をお届けします。

ピアノづくりで培ったこだわりと情熱をもって、皆様にとってかけがえのないパートナーを目指します。

これまで、そしてこれからも「感動製造業」であり続けるために。

### コーポレートスローガン

もっと伝えたい、感動を。

KAWAI  
**80th**  
Anniversary

80周年記念マーク

## 80周年記念行事の一例の紹介。

### ■80周年記念コンサート

カワイコンサートは、「日本中の人々に良い音楽を」という考えに基づき、1971年よりスタートし、その開催回数は2000回を超えています。今回の創立80周年記念コンサートでは、1990年と2005年のショパン国際ピアノコンクールで実際に使われたコンサートグランドピアノ「EX」と「SK-EX」を使用。演奏は、次代を担う4名のピアニスト、江尻南美さん、島田彩乃さん、高橋多佳子さん、根津理恵子さんの共演により、ピアノソロから8手連弾まで、幅広いプログラムで構成されました。このコンサートは10月12日の東京公演を皮切りに、大阪、浜松の全国3会場で開催されました。



### ■カワイハイパーウッド

80周年記念事業として地域に開かれた工場として、2007年夏と秋の2回工場を会場に地域住民の皆さんをお招きしてコンサートを開催しました。

第1回目は社員による手作りコンサートとして7月22日(日)に開催し、社員の熱演ぶりに地元住民の皆様から温かい拍手をいただきました。また、当日は新潟県中越沖地震に対するチャリティバザーも同時に開催され、集まった義援金は後日寄付されました。



第2回目は11月24日(日)に開催されました。今回のコンサートでは世界的に活躍されている根津理恵子さんをお招きし、ショパンの幻想即興曲等おなじみの曲を間近で聴くことができ、超満員の観客はその素晴らしい演奏に聴き惚れていました。尚、今回はインドネシアでの植林事業のための募金とチャリティバザーが行われカワイの森育成会に寄贈されました。

### ■インドネシアにおいて「カワイの森」植林事業を開始

当社創立80周年記念事業の一環として、当社グループの制定する地球環境憲章の基本理念ならびに行動指針の実践として、カワイグループ各社とその役員ならびに従業員等で構成する「カワイの森育成会」(以下育成会)によるインドネシアの植林事業を開始しました。

今回植林事業を行なった同国カラワン県には、当社ピアノ・電子ピアノの生産拠点であるPT.カワイインドネシア(以下KI)があり、当社にとって最も関係が深い地域です。また植林するマルガカヤ村の丘陵地は、KI第1工場のすぐ近くにあり、この丘陵に降った雨が下流の住宅地でたびたび洪水を発生させることから、植林によって治水の効果も期待できます。

今後5年間で、この丘陵地約250haに、アルバジア・ファルカタとアカシア・マンギウム苗木を20万本植林する計画で、2007年度は、そのうちの50haに4万本の植林を行いました。

約10年で伐採可能な木に成長し、地元経済への貢献も期待されています。

なお植林された土地は「カワイの森」と名付けられました。

また、11月28日は同国の植林記念日で、国を挙げて各地で催しが行われましたが、今回の植林事業はカラワン県の植林記念事業の一環とされ、2007年12月10日には植林場所にてセレモニーが盛大に開催されました。育成会の役員である当社役員を始め、カラワン県知事、各地域の首長、地元住民ら約900人が出席し、契約書への調印、感謝状の贈呈等が行われ、最後に参加者が一斉に植林しました。



### ■竜洋工場記念植樹

ピアノ事業部は80周年記念活動として、「伸びゆく緑と共にステップアップ」を全体のスローガンとし、次の活動を行ないました。

- ・緑地に憩いの場をつくろう
- ・ピアノに使用している樹種の記念植樹を実施しよう
- ・グランドゴルフとミニコンサート

2007年11月17日 竜洋工場敷地内にて、新たに憩いの場として従業員が作り上げた広場で、手製のモニュメントの除幕式を行い、それを皮切りに全員一斉に植樹を行ないました。

アカエゾマツをはじめ、イタヤカエデ、シロブナ、ナラ、ヒノキ等全部で14種類の木を計110本、それぞれの職場に関係の深い木を自らの手で植えました。



創立80周年を迎え、竜洋工場内にある「カワイピアノ歴史資料室」が2007年5月リニューアルされました。

下記の点が主な変更点です。

- ・ピアノについてより知識を深めることができる様に、従来の「ハーブシコード」「ピアノフォルテ」「ハンマーフリューゲル」のほかに「クラヴィコード」を追加展示しました。
- ・ピアノの中身がよくわかる様に、グランドピアノアクション機構など、主要なパーツを展示しました。
- ・見学に訪れた子供たちがより楽しめるような工夫として「音の体重計」「音楽に関する絵本」を展示しました。



カワイ地球環境憲章に定める基本理念、行動指針を具体化した環境方針に基づいてオールカワイの推進組織により環境保全活動を展開しています。

### 地球環境憲章と環境方針

#### 地球環境憲章

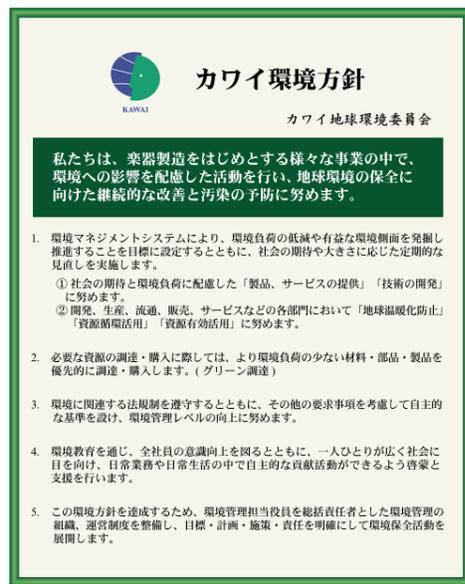
カワイはすばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。

世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感の道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定しました。



#### カワイ環境方針

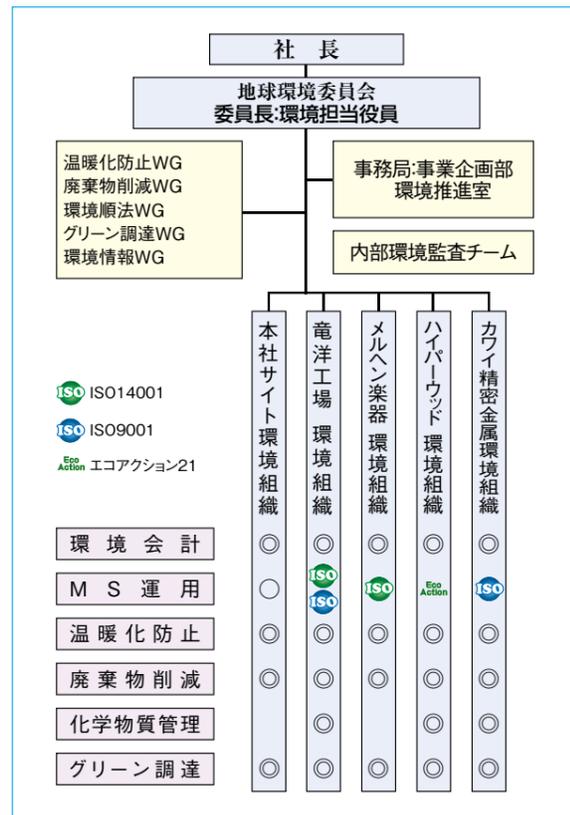
河合楽器地球環境委員会では「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しており、今年度も見直しを図りました。《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進します。



詳細はホームページをご覧ください。  
ホームページ  
<http://www.kawai.co.jp/company/activity/ambience.asp>

### カワイの環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目的・目標を設定し活動しています。毎年環境月間の6月には各サイトの昨年度実績及び当年度の目標を報告する全体会議を開催しており、2007年度は『環境の日』の6月5日に実施しました。



※舞阪工場は、事業所統廃合により、竜洋工場の舞阪事業所として、ISO14001に取り組んでいます。

EMS: 環境マネジメントシステムの略 事業者が自主的に環境保全に関する取り組みを進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくシステム。国際規格のISO14001、環境省が策定したエコアクション21などがある。  
MS: マネジメントシステムの略  
WG: ワーキンググループ

#### 環境監査

当社では、ISO14001規格で要求されている継続的改善のP・D・C・Aをまわすため、定期的に「外部審査」「内部環境監査」を実施しています。

#### 外部審査

認証取得サイトでは、認証機関により毎年のサーベランス審査、3年毎の更新審査でシステムが有効に機能していることの審査を受けています。

CO<sub>2</sub>排出量・廃棄物量ともに目標を達成しています

### 2007年度から2009年度の3年間の3カ年計画の目的

当社のCO<sub>2</sub>排出量は京都議定書基準年1990年から2006年度までに、日本の目標の9%を超える20%の削減がなされています。

地球温暖化防止を重点課題と考え、社会へより貢献することを目的に、さらなるCO<sub>2</sub>排出量の削減を目標としました。目標を達成しますと当社のCO<sub>2</sub>削減量は、京都議定書の基準年1990年から32%の削減となります。

また、生産効率改善、不良率削減に取り組み、不良として廃棄される廃棄物量の削減を図ります。主製品の原料である木材、金属の廃棄物のリサイクル・処理や売却に取り組み、廃棄物量を2006年より15%削減することを目標としております。

・地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量	15%削減	基準年2006年度
・資源循環活用	廃棄物量	15%削減	基準年2006年度

#### 2007年度の主な環境目標と実績

各環境組織の主な目標に「生産効率向上」「不良率削減」を掲げ、活動に取り組んでまいりました結果、初年度の目標を達成することができました。

特に、リサイクル量を含めた総廃棄物量は、基準年の廃棄物量より約27%削減することができました。

項 目	基準年	目標年	2007年度			
			目標	実績	評価	
地球温暖化防止	エネルギー原単位を5%減	2006	2007	-5%	-10%	◎
	電力量原単位を5%減	2006	2007	-5%	-9%	◎
	エネルギーCO <sub>2</sub> 排出量を3%削減	2006	2007	-3%	-3%	◎
資源循環活用	廃棄物(埋立焼却)原単位を10%削減	2006	2007	-10%	-32%	◎
	廃棄物(埋立・焼却)排出量を絶対値比10%削減	2006	2007	-10%	-17%	◎

◎ 達成 ○ あと一步

#### 当社のエネルギー管理指定工場

第一種エネルギー管理指定工場	対象工場なし
第二種エネルギー管理指定工場	竜洋工場、カワイ精密金属 松本工場(2008年度より)

第二種エネルギー管理指定工場は、自主エネルギー削減計画を策定し、エネルギー削減に取り組んでいます。

#### 環境経営指標

当社では、環境経営指標としてCO<sub>2</sub>排出量を当社グループの全売上高にて除した指標を用いています。

2005年度より毎年着実に減少し、環境経営が順調にすすんでいます。

また、廃棄物に関して、埋立、焼却処理を行う量は2007年度で2.59kg/百万円と2005年度の45%にまで減少しています。

指 標	単 位	参 考	基 準 年	当 年 度	基 準 年 比
		2005	2006	2007	[%]
環境経営指標	ton-CO <sub>2</sub> /百万円	0.22	0.21	0.19	90.5%
エネルギー原単位	GJ/百万円	3.83	3.48	3.14	90.2%
電力量原単位	GJ/百万円	3.12	2.91	2.64	90.7%
廃棄物(埋立・焼却)原単位	kg/百万円	5.7	3.83	2.59	67.6%
廃棄物(リサイクル)原単位	kg/百万円	24.74	24.08	16.58	68.9%
再資源化率		81.3%	86.3%	86.5%	100.2%

環境経営指標:CO<sub>2</sub>排出量/売上高  
原単位売上高100万円に対する指標



CO<sub>2</sub>排出量 1990年(京都議定書基準年)から22%削減。

### 地球温暖化防止への取組(CO<sub>2</sub>排出量)

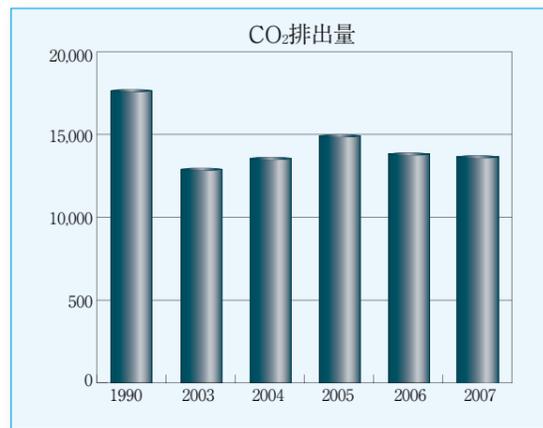
当社グループでは地球温暖化対策を環境経営の重点項目と位置づけ、工場や本社事務所のエネルギー使用によるCO<sub>2</sub>の排出や物流によるCO<sub>2</sub>の排出削減を目的・目標に掲げ活動しています。

工場の統廃合により、京都議定書の基準年である1990年度より、2007年度はCO<sub>2</sub>の排出量は22%削減されています。京都議定書の日本の目標値6%削減に対して当社は大幅に削減しています。

また、当社グループでは2007年度からの3ヵ年計画において、よりCO<sub>2</sub>を減らすことを目指し、2009年度にまでに2006年度を基準として15%のCO<sub>2</sub>削減を目標に掲げました。3ヵ年計画の初年度の2007年度は、2006年度より目標値の3%削減に対し実績として3%の削減を行い、目標を達成することができました。

当社グループの工場は、ピアノ製造の竜洋工場と金属加工のカワイ精密金属松本工場の2工場が第二種エネルギー指定管理工場に登録され、自主的にCO<sub>2</sub>削減計画を策定し、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

また、「ノーネクタイ」「ノー上着」活動を実施し、オフィスの室内設定温度を上げるクールビズ運動も展開しています。



年度	1990	2003	2004	2005	2006	2007
排出量	17,640	12,898	13,547	14,918	14,162	13,718

[単位:ton-CO<sub>2</sub>]

### CO<sub>2</sub>の吸収活動(植林活動)の推進

#### ・「森の中の緑の工房」

当社は、1980年に「森の中の緑の工房」を目指し竜洋工場を建設しました。工業団地の造成地に工場周辺や構内へ当初約20,000本の苗木の植林を行い、引き続き日々植林活動を続け、現在までに、約26,000本の植林を行ってきました。また、2007年度は創立80周年として新たに110本の植林を行いました。工場周辺の木々は28年の歳月を経て、大きな樹木に生長し、「森の中の緑の

工房」の名にふさわしい工場となりました。この活動が評価され2005年緑化優良工場として(財)日本緑化センター会長奨励賞を受賞しました。

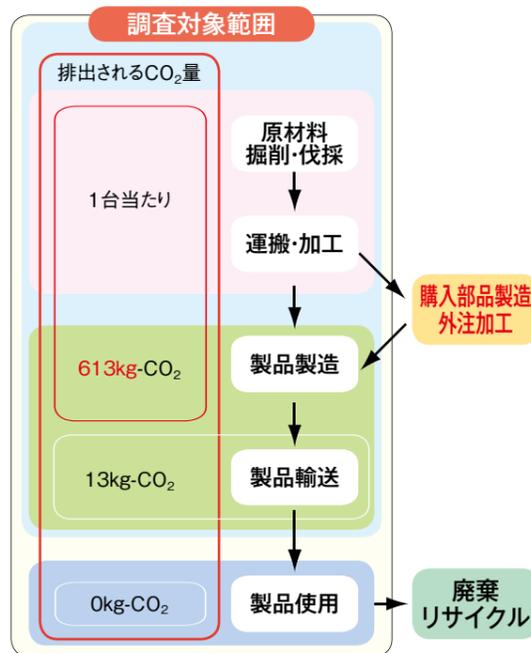


#### ・海外植林活動

この精神を受け継ぎ、海外生産拠点のインドネシアにおいて当社グループ社員の寄付により「カワイの森」として2007年より植樹活動を行なっております。1年間50ヘクタールの土地へ約40,000本の植樹を行い、5年間で250ヘクタール20万本の本を植樹していきます。当社計算では、5年後にはインドネシアの植林により年間 3,667トンのCO<sub>2</sub>の吸収を見込んでいます。

### 主な製品のLCA(ライフサイクルアセスメント)の調査

製品を作るための資源の採取から部品、製品を作る過程で排出されるCO<sub>2</sub>量及び製品を使用し、廃棄までにCO<sub>2</sub>をどのくらい排出するのかの調査を当社の主な製品のグランドピアノ(RX-3)について行ない、結果は、次の表のとおりとなりました。

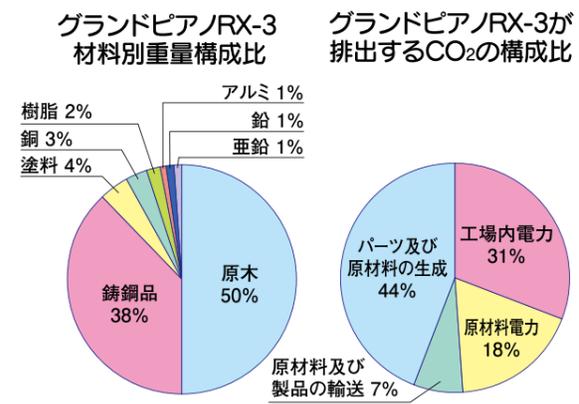


\*製品の廃棄について  
ピアノの寿命は数十年のため算出から除外しました。  
\*購入部品の加工製造及び外注での加工・輸送については含まれていません。  
\*製品輸送は磐田→東京間を用いています。

当社の主製品のピアノは、一般の電化製品、自動車と異なり製品の使用時に排出されるCO<sub>2</sub>はありません。

また、製品寿命は当社調律師によるアフターサービスを実施しており、一般に数十年と長く、また当社リサイクルセンターにてリユースを行なうことで、寿命はさらに長くなっています。当社製品は、製造までのCO<sub>2</sub>排出量が製品寿命の総CO<sub>2</sub>排出量と考えることが出来ます。

グランドピアノ1台が生産に排出するCO<sub>2</sub>の量626kg-CO<sub>2</sub>は、ガソリンの消費量約270リットルに相当します。グランドピアノを10年間使用しますと、年間換算でガソリン27リットルの消費量、月に約2.2リットルの消費量に相当します。LCAからみますとピアノのCO<sub>2</sub>排出量は製品重量に比較して、少ないといえます。



また、当社が行なっていますインドネシアの植林活動5年間による木々が吸収する年間CO<sub>2</sub>量は、グランドピアノ1,875台分に相当します。

\*このLCAの算定には、財団法人 産業環境管理協会のライフサイクルアセスメント実施ソフト「JEMAI-LCA Pro」を使用しました。

#### ※LCA ライフサイクルアセスメント

原材料採取から製造、流通、使用、廃棄に至るまでの製品の一生(ライフサイクル)で、環境に与える影響を分析し、総合評価する手法。製品の環境分析を定量的・総合的に行う。(平成19年版 環境/循環型社会白書 環境省より)

当社は、工場のCO<sub>2</sub>排出量も少なく、生産している製品のCO<sub>2</sub>排出量も少ないという特徴があります。しかし、更なるCO<sub>2</sub>排出量削減のため

- ・工場の生産活動によるCO<sub>2</sub>削減の取り組み
- ・植林活動によるCO<sub>2</sub>吸収の取り組み

を推進しています。

### 流通における温暖化対策

楽器輸送における効果的な積載方法の実施やコンテナ積みにおける梱包箱サイズの適正化などを行い、流通におけるCO<sub>2</sub>削減に努めています。

輸送手段は大型トラックが主体ですが、600kmを超える長距離輸送には、モーダルシフトによる列車コンテナや効果的なバン積みによる輸送(主に輸出品の国内搬送)も活用し負荷の低減を図っています。

また「物流ルートの見直し」等による輸送効率を高める施策や梱包材再利用等の「物流費の削減」を、今後も続けていきます。

\*モーダルシフト:トラック等による幹線貨物物流を、環境負荷の少ない大量輸送機関である鉄道貨物輸送・内航海運に転換すること(平成18年版 環境白書より)

### CO<sub>2</sub>削減 ライトダウンキャンペーン



環境省の「CO<sub>2</sub>削減 ライトダウンキャンペーン」に参加しています。

2005年、2006年に引き続き「ブラックイルミネーション2007」にカワイは、ネオンサインの消灯で参加しました。浜松駅前ビルのカワイピアノネオンサインと舞阪事業所の屋上ネオンサインを2007年6月22日(夏至)から6月24日の3日間午後8時から消灯しました。

また、2008年は、「ブラックイルミネーション2008」として6月20日から6月22日と洞爺湖サミットに合わせた7月7日の「セタライトダウン」の2回浜松駅前ビルのネオンサインの消灯を行ない、CO<sub>2</sub>削減に協力しました。

廃棄物排出量の削減と静岡県知事褒章受賞

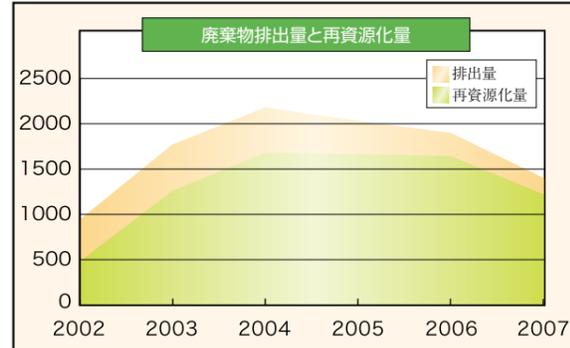
廃棄物削減と再資源化

廃棄物の削減と徹底した分別回収による再資源化を図ることが重要な使命と認識し活動しています。

2003年度から大気汚染の防止、ダイオキシン対策特別措置法の順守を目的に木くずボイラー・焼却炉を廃止したため今まで燃料としてサーマルリサイクルされていた木くずや木粉が廃棄物扱いとなり、廃棄物排出量が大幅に増加しました。

しかしながら企業努力により木屑等は全て再資源化(製紙原料、ボード原料、燃料用 他)しております。

全体の再資源化比率は87%となっております。



年度	2003	2004	2005	2006	2007	
再資源化量	ton	1,262	1,680	1,652	1,641	1,208
排出量	ton	1,774	2,181	2,032	1,902	1,396
再資源化率	%	71	77	81	86	87

「産業廃棄物適正処理推進功労者に対する静岡県知事褒賞」受賞



平成20年度の産業廃棄物適正処理推進功労者に対する静岡県知事褒賞の受賞が決まり、平成20年5月に褒状を授与されました。

静岡県知事褒賞は、産業廃棄物の減量化、再生利用、これらの技術開発、共同処理の組織化、不法投棄防止への協力など産業廃棄物の適正処理の推進に寄与し、他の模範となる功績を上げている法人、団体、個人に贈られるものです。

当社が同賞に推薦された主な内容は、次の3点です。

1. 1997年9月、楽器業界としては世界で初めてとなるISO14001認証を取得
2. 1998年に㈱ピアノリサイクル(現:リサイクルセンター)を設置し、高品質でユーザーの要求に見合った使用済みピアノのリユースの継続的な取り組み。
3. 2003年より3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動に取り組み、再資源化率向上を図っており、中でも竜洋工場においては、落し材、おが粉等の木くずのリサイクル率は現在100%に達していること。

当社は、これからも、当社の定める地球環境憲章の基本理念に基づき、グローバルな視野に立って、地球環境にやさしい企業をめざしてゆきたいと考えております。

蛍光灯の「あかり」購入

当社では、2008年1月より廃棄物削減とコスト削減及びより適正なリサイクル化を目的に、松下電工株式会社の「あかり安心サービス」の提供を受けることとしました。

これにより、使用する照明に関する作業に対し、次のメリットが生じます。

- ① ランプの適正処理による環境負荷の低減。
- ② ランプの所有権は当社になく、当社での排出責任がなくなることによる廃棄物量の削減。
- ③ 使用済みランプ置き場スペースの削減。
- ④ マニフェスト管理不要となることによる工数削減。
- ⑤ 廃棄物業者の適正処理確認のための視察不要となることによる工数削減。

推薦された功績の紹介

① 竜洋工場の木くずリサイクルの取組

- 2003年前 蒸気ボイラー・焼却炉の燃料として、サーマルリサイクルを実施。
- 2003年後 蒸気ボイラー・焼却炉の廃止に伴い、木くずが廃棄物となる。木くずのリサイクルに取り組む。

木くずリサイクルの流れ



木粉固形化設備を設置し、おが屑の体積を1/3にして、排出しています。

固形化されたものは、牧場にて元のおが屑に崩されて使用されます。

なお、おが屑のリサイクル工程は、最終的に農地へ運ばれ、堆肥として使用されます。



木粉の固形化(フリケットマシン)



土壌汚染と食品の安全性を考慮して、当社より排出するおが屑に重金属等の危険な物質が含まれていないことを分析し、確認しています。

② リサイクル・リユースの取組

生産者拡大責任と循環型事業として㈱ピアノリサイクルを98年に設立し、現在はリサイクルセンターが、お客様のニーズにこたえています。当社では熟練の技術者の手により古いピアノのリユースに取り組んでいます。

ピアノは「もの」であるとともに「楽器」であり、そこにはお客様の「感動」した心、様々な「思い出」を残しながら、伴に人生を歩んできました。

元のピアノの基本を残して、豊富な経験に裏づけされた高い技術力で、「思い出」は残しながら、まるで新品のように生まれ変わります。生まれ変わったピアノとともに新たに使用する人の「思い出」が紡ぎ出されます。

歴史的ピアノの修復では、現存しない部品を手作業で製作することから始まり、熟練の技術者により当時のピアノに蘇らせています。

今では弾く人もいなくなった思い出のピアノ、使わなくなったピアノを再生し、お客様に満足していただいています。

ピアノ製造に携わる者にとって、作ったピアノが世代を超えて演奏され、感動を与え続けることは本当に幸せなことです。

リサイクルするピアノの種類は、次の3種類に分けられます。

- ① お客様が不要になったピアノ
- ② 思い出が込められ、次の世代に引き継がれるピアノ
- ③ 歴史的なピアノ

・「思い出が込められ、次の世代に引き継がれるピアノ」の一台

2008年5月に当社のリサイクルセンターに倉敷市、岡田小学校から1台のグランドピアノが届けられました。

昭和22年、岡田小学校は火事という不幸に見舞われてしまいました。校舎、机、オルガンは燃えてしまいました。そこで、大人たちは子どもたちにグランドピアノを買ってあげたいという願いから、募金活動を始め、昭和28年10月、グランドピアノ500号が到着しました。そのグランドピアノは長い年月の間、入学式・学芸会・卒業式など、子どもたちの成長とともに小学校で過ごしてきました。

そのピアノが最近、老朽化のために処分されようとしていました。そのとき、思い出と歴史が詰まったピアノを守るため岡田小学校では55年前と同様にPTAが中心となって「岡田小学校のピアノを愛する会」を組織して、募金活動・絵本作り活動を行いました。そして、グランドピアノをすばらしい響きを持ったピアノに再生するためにリサイクルセンターに届けられました。

ピアノを購入するために募金した人たちの想い、ピアノとともに過ごした小学校時代の思い出、岡田小学校の歴史に係わる多くの人たちの思い出も再生して、2008年9月にまた500号は岡田小学校に戻ります。



グランドピアノ500号

シリーズの中でも主力商品で昭和45年まで製造されていました。岡田小学校の500号は特別注文モデルであり、その型では最も古い機種になります。また、戦後初めて、創業者河合小市社長が手がけたグランドピアノでもあり、ピアノ作りにかけては、人一倍の情熱の持ち主であった小市社長の「世界一のピアノを日本で」「子どもたちに音楽を」の理念が結集された作品です。

連絡先:リサイクルセンター 0120-319-648

グリーン調達推進方策

グリーン調達

当社では調達・購入にあたり当社の定める地球環境委員会環境方針に基づき、必要な資源の調達・購入に際しては、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する『グリーン調達』にグループ全体で積極的に取り組んでいます。

グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク(GPN)の基本原則に準じグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減し、地球環境の保全と循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。調達基準の共通事項を次のように定めています。

ライフサイクルにおける環境配慮設計がされていること  
下記の環境に配慮した取組がなされていること

- ・環境汚染物質への配慮/省資源/省エネルギー
- ・天然資源への配慮/長期使用性/リユース可能性
- ・リサイクル可能性/再生材料等の利用
- ・処理処分の容易性

またサプライヤー選定時の配慮事項も次のよう定め購買部門でお取引先に対し対応をお願いしています

- ・環境マネジメントシステムを構築し運用していること
- ・省資源、省エネ、化学物質管理、グリーン購入等への取組
- ・梱包材についても環境配慮していること
- ・環境情報を積極的に公開していること



グリーン調達に関しては、上記のほか調達基本方針や適用範囲、調達基準ガイドライン等を定めています。またこのガイドラインに基づいて文具類等の調達ガイドラインも別に策定されています。

木材調達

ピアノの心臓とも言われる響板には厳選されたアラスカのスプルースが使われます。樹齢150~400年、高さが60mにも達する針葉樹の大木です。ピアノの響板には地上6~20mの部分で木目がまっすぐかつ「ふし」のない所しか使えません。

このような貴重な森林資源の保護を念頭に、企業として木材のグリーン調達に取り組んでいます。

木材調達ガイドライン(2006年6月開示)

2006年に持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化しました。

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

- 1.カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
- 2.カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
- 3.カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
- 4.カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
- 5.カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。



アラスカのスプルース 樹齢250~260年

音環境を楽しむために

もっと自由なピアノの楽しみ方をハイブリッド技術でご提案  
消音型アップライトピアノ  
“ANYTIME (エニタイム) X”シリーズ

消音型アップライトピアノ“ANYTIME(エニタイム) II”シリーズをフルモデルチェンジした“ANYTIME X”シリーズを発表しました。

“ANYTIME X”シリーズは、夜間など音を出せないときにデジタル音源に切り替えてヘッドホンで演奏を楽しむことができる環境配慮型アコースティックピアノです。“ANYTIME X”シリーズでは、ハンマー検出型の新センサー「インテグレートッドハンマーセンシングシステム」を搭載して、タッチ感の向上を図るとともに、「響板スピーカーシステム」や「スライド式スイッチパネル」を採用するなど、消音ピアノの枠を超えたハイブリッド技術を採用しております。

アコースティックピアノのノウハウと、デジタル技術の両方を持つカワイから、音環境に配慮したもっと自由なピアノの楽しみ方をご提案しています。

■製品の特長

- 1) 新センシング方式「インテグレートッドハンマーセンシングシステム」採用。(全機種)
- 2) ヘッドホンなしで電子音の再生・音量調節が可能な「響板スピーカーシステム」搭載。(ATX-f)
- 3) 操作性・視認性に優れた「スライド式スイッチパネル」採用。(ATX-f/ATX)
- 4) 音色数22、最大同時発音数192音、レコーダー機能強化など、基本機能も充実。(ATX-f/ATX)

〈カワイのハイブリッド製品〉

世界一のピアノづくりをめざして、培ってきたノウハウ。奏でる喜びをたくさんの人に伝えるため、進化させてきたデジタル技術。その両方を追求するカワイだからこそ、できることがあります。当社では、両方の技術を融合させて開発された新しいハイブリッド製品には、このマークを製品・カタログ等に表示します。

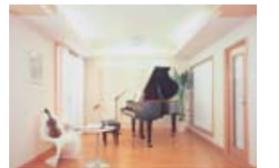


K-5 ATX-f

カワイ防音ルーム“ナサール”  
「Free and Open (自由開放空間)」  
ニューオーダータイプ

創立80周年を機に防音ルーム“ナサール”のオーダータイプの上位機種として、ニューオーダータイプを発売しました。カワイ防音ルーム“ナサール”は、音響性能と居住性の両立を図った、よりよい音環境を楽しむ空間として、楽器用防音室にとどまらず書斎やAVルームとしてもご利用いただけます。

防音ルーム“ナサール”ニューオーダータイプは「Free and Open(自由開放空間)」をコンセプトとし、大面積の窓の設置やデザイン天井の選択などにより室内の開放感を向上させました。また内装色の選択の自由や天井への間接照明の設置などの「設計の自由度向上」を実現したことにより、お客様にとってより理想の防音ルームを提供することが可能となりました。



■製品の特長

- 1) 光あふれる大面積固定窓の設置が可能
- 2) 内装の選択の幅が大幅に向上
- 3) 使用目的に合わせた響きの設計が可能

研究・測定・産業用防音ルーム  
“サイエンスナサール”

大学や企業向けに、研究・測定・産業用防音ルーム“サイエンスナサール”を提供しております。

“サイエンスナサール”は、従来“ナサールオーダータイプ”の特注対応としていた、大学や企業の研究施設向けの産業用防音室について、用途を絞り込み、新設計の不燃対応パネルや高遮音鋼製防音ドア(FKS)を標準採用した、ユニットタイプの新製品です。さらに防音タイプの通線用コネクタボックスや電磁波シールド仕様をオプション対応としています。



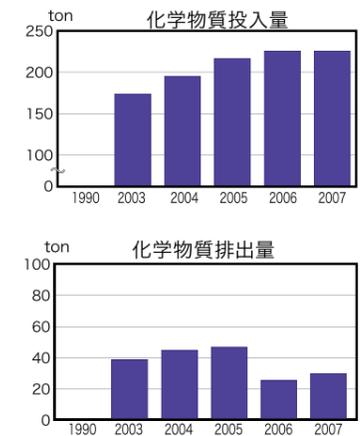
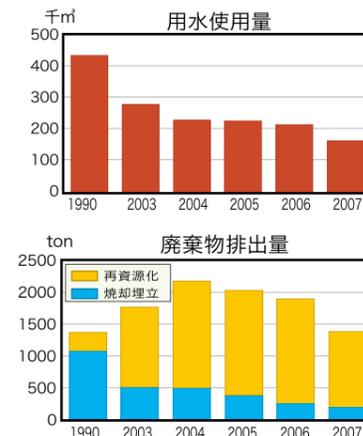
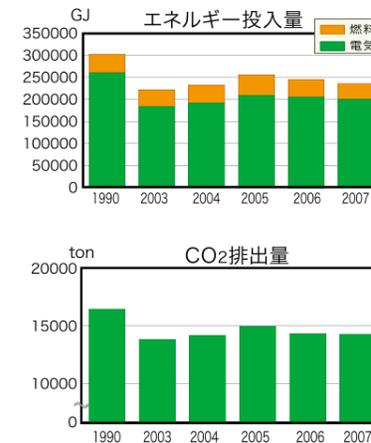
■製品の特長

- 1) 新設計の不燃対応鋼製パネルにより、短工期(最短1日)を実現。移設対応も可能。
- 2) 鋼製防音ドアを標準装備し、より高い遮音性能と信頼性を確保。(FKS)
- 3) 電磁波をカットする「シールドルーム仕様」など、充実したオプション対応。
- 4) 豊富なサイズバリエーションをご用意。



カワイグループは、企業活動が環境に及ぼす影響を認識し、事業が環境に与える負荷を数値で把握することが活動の第一歩と考えております。

カワイでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を把握し、その及ぼす影響を軽減するために開発・設計・調達・製造から輸送、さらにお客様が製品を使用・リサイクル・廃棄に至るまでの各段階でどれくらいの資源・エネルギーを使用しているか、またどのような環境負荷が発生しているかについてデータ集計を行なっております。今後もデータ把握の対象事業を広げ環境負荷の低減に取り組みます。



## Input

	2006年	2007年
エネルギー(GJ)		
総計	244,023	236,675
電力	205,038	200,047
A重油	37,471	35,129
LPG	1,167	1,029
灯油	348	471

	2006年	2007年
水(千m <sup>3</sup> )		
総計	212	160
井水	129	89
水道水	34	18
工業用水	49	53

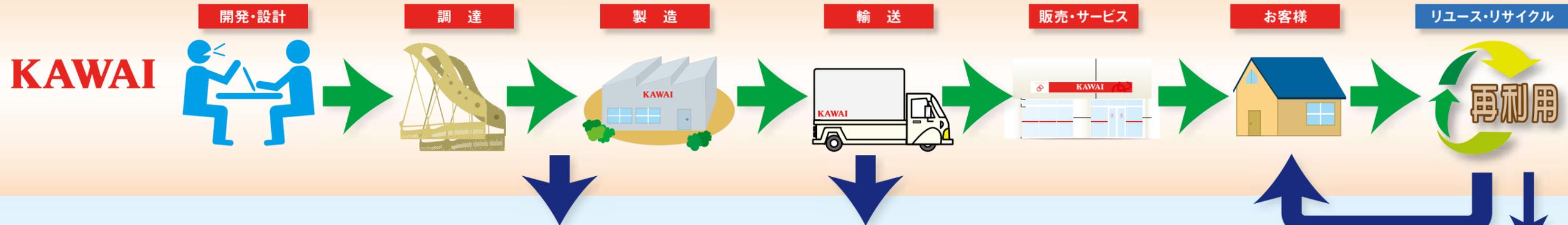
	2006年	2007年
燃料(GJ)		
ガソリン	762	704
軽油	4,679	4,455

	2006年	2007年
容器包装(kg)		
紙	11,787	9,282
プラ	9,097	9,164

エネルギー GJ  
電気 0.0

ピアノの演奏は人力のため、使用段階でのエネルギーは0と評価しました。又、電子ピアノ・オルガンについては演奏時間等の設定が困難なため、対象から外しました。

	2006年	2007年
化学物質(ton)	217	218



## Output

温室効果ガス (ton-CO <sub>2</sub> )	2006年	2007年
CO <sub>2</sub>	14,162	13,718

※1

排水(千m <sup>3</sup> )	2006年	2007年
	170	128

※2

化学物質(ton)	2006年	2007年
排出量	26	30
移動量	11	11

廃棄物(ton)	2006年	2007年
総排出量	1,898	1,397
焼却・埋立	257	189
再資源化	1,641	1,208

温室効果ガス (輸送) (tonCO <sub>2</sub> )	2006年	2007年
	520	506

温室効果ガス  
CO<sub>2</sub> 0.0ton

アコースティックピアノにおける使用段階での排出は0と推定しました。電子楽器についてはINPUT同様の考えから対象から外しました。

	2006年	2007年
容器包装(kg)	2,223	2,478

※1 購入電力からのCO<sub>2</sub>排出量算出係数は0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いています。  
 ※2 各事業場毎の排出量の集計でなく、使用量から推定しています。

着実な成長戦略への転換をめざして

第2次中期経営計画(2007年4月よりスタート)

経営改善計画から新中期経営計画と延べ5年間にわたる経営計画の遂行により、企業体質の改善が進み、第2次中期経営計画では着実な成長戦略への転換をめざします。

1.計画期間

2007年4月1日～2010年3月31日

2.基本方針

1)経営構造の革新

自立型組織体制の構築と情報システム整備により、経営構造を事業単位に明確化し、外部環境変化に迅速に対応する。

2)持続可能な成長

強みを最大限に活かし、成長分野への経営資源の投入により主力3事業(楽器、教育関連、素材加工)で着実な成長を図る。

3)恒常的な利益確保

安定的に利益を確保し、株主への利益還元により企業価値の向上を図る。

3.経営戦略

主要施策として、組織と情報システムの再構築を行い、業績把握の迅速化を図り、グローバル化した生産、販売活動において外部環境変化にタイムリーに対応する経営体をめざします。

1)自立型組織体の構築

事業セグメントごとに経営体として自立可能な組織を構築します。

2)ERPの導入によるスピード経営の実現

複雑化、分散化した基幹系情報システムを統合し、経営の効率化をめざします。

3)新人事制度の導入

新たな人事制度を導入します。特に人材育成を強化し、技能伝承の課題解決に注力します。

事業別重点戦略

1.楽器事業

◇ピアノ

市場の二極化に対応するために、SKシリーズの拡販を軸とした、ブランド力の確立と、海外生産によるコストダウンにより競争力を高める。

◇電子楽器

生産では海外に自社生産拠点を新たに立ちあげ、販売では国内、海外ともに販売網を拡大する。

◇ハイブリッドピアノ

アコースティックと電子の技術を融合したハイブリッドピアノの開発により、当社の強みを発揮。

2.教育関連事業

音楽教室事業と体育事業において、ともに生徒数の増加を図る。体育事業は年少人口向け体育教室の生徒数増加を図る一方、健康ブームで関心が高まっている生産年齢人口、高齢人口向けの健康増進事業を拡大する。

3.素材加工事業

金属事業を中心とした積極投資により増収・増益をめざす。

4.情報関連事業

事業内容をハードウェア販売中心からソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ、保守までを一貫して顧客に提供するソフトサービス事業へシフト。

5.その他の施策

CSR経営を重視し、(1)法令順守、(2)内部統制、(3)環境への配慮、(4)社会貢献等に取り組みます。

4.連結業績目標

売上高740億円、営業利益40億円、自己資本率40%超をめざします。

	初年度計画	第2年度計画	最終年度計画
売上高	685	702	740
営業利益	28.5	30	40
経常利益	24.5	27	37

(2007.5.15時点)

2008年3月期の事業概況

初年度は、楽器事業においては最高級グランドピアノ Shigeru Kawaiシリーズを始めとした高付加価値製品の販売および海外生産化による競争力向上、教育関連事業においては教室新設およびコース拡大、素材加工事業においては受注拡大およびコスト削減に取り組みました。

この結果、「第2次中期経営計画」初年度の実績は、初年度計画に対しまして売上高においては2,529百万円上回る71,029百万円となりました。利益面につきましては、原材料価格の上昇、基幹系情報システムの再構築、新人事制度導入による費用増加、法改正に伴う減価償却費の増加、円高の影響等があり、計画達成に至りませんでした。

また、同計画で掲げました戦略に基づく諸施策につきましては、ほぼ計画通りに推移しております。

	計画	実績	計画比
売上高	685	710	+25
営業利益	28.5	23.9	▲4.6
経常利益	24.5	16.8	▲7.7

今後の見通し

第2次中期経営計画の第2年度においては、初年度に実施した国内営業組織の改編、基幹系情報システムの再構築、新人事制度の導入などの各種施策の効果を追及してまいります。

各戦略の進捗状況

戦略の実施状況の一部をご紹介します。

- ・楽器事業 販売面 名古屋ショップリニューアル 中国市場への対応
- ・楽器事業 生産面 電子楽器インドネシア工場設立

中部エリアに新しい情報発信基地誕生“カワイ名古屋”リニューアルオープン

当社は、去年の表参道店に引き続き、中部エリアの旗艦ショップである名古屋ショップ(名古屋市中区)のリニューアルを行い、“カワイ名古屋”と名称を変えて2007年9月14日にオープンしました。名古屋ショップは、昭和58年2月の開店以来、名古屋市栄地区の中心部セントラルパーク前に位置し、中部エリアの旗艦ショップとして多くのお客様に親しまれてまいりましたが、昨年9月にリニューアルしたカワイ表参道と同様に、お客様にピアノを弾いて、聴いて楽しんでいただける環境づくりをめざし、さらに魅力あるショップに生まれ変わるべく、改装されました。

今回の改装のポイントは、1Fの楽器売場はグランドピアノを中心としたレイアウトとし、お客様にゆったりとピアノ



を選んでいただけるよう試弾室を設けました。また2Fには約100席のコンサートサロン“Bourrée(ブーレ)”を新設し、コンサートや発表会などジャンルを問わず様々なイベントに対応します。また併設される音楽教室も新たに“カワイミュージックスクール栄”として生まれ変わるとともに、ハイレベルなピアノレッスンコースの追加など魅力あるコースを整備しました。

\*Bourrée(ブーレ):フランス語で2拍子系のテンポの速い舞曲を意味する。



中国上海市内にカワイ音楽教室第1号教室開設

中国での主要取引先である柏斯(パーソンズ)グループとの間で、中国国内における音楽教室展開に関する事業提携を行い、2007年6月13日、上海市内にカワイ音楽教室の第1号教室を開設しました。

当社は現在、中国市場において、関係会社である河合貿易(上海)有限公司を拠点としてピアノの販売促進活動を実施しており、近年売上が大きく伸びています。特に日本製の高価格帯ピアノでは、音楽大学やその他の学校およびその生徒を中心に、カワイブランドに対する高い評価をいただいています。

そこでカワイ音楽教室を開設することによって、学校関係以外の中国の皆様に対し、カワイブランドのさらなる浸透・定着を図ってまいります。

カワイ音楽教室第1号教室は、上海市内の交通の要所である中山公園の大規模ショッピングセンター「龍之夢購物中心」の8階に開設いたしました。



カワイインドネシア第3工場

第2次中期経営計画の重点施策の一つとして、現在のOEM委託先に加えて、電子楽器生産の自社工場建設を検討してまいりました。

そこで、2007年5月、インドネシアのジャカルタ近郊に、工場用地14,200㎡および工場建屋3,784㎡を取得し、電子ピアノ組立を行うカワイインドネシア(以下、KI)第3工場として、

2007年8月より生産を開始いたしました。

KI第3工場の稼働によって、高まる需要への対応と安定供給体制の構築をめざすと同時に、原価低減等による更なる製品競争力の向上を図ってまいります。



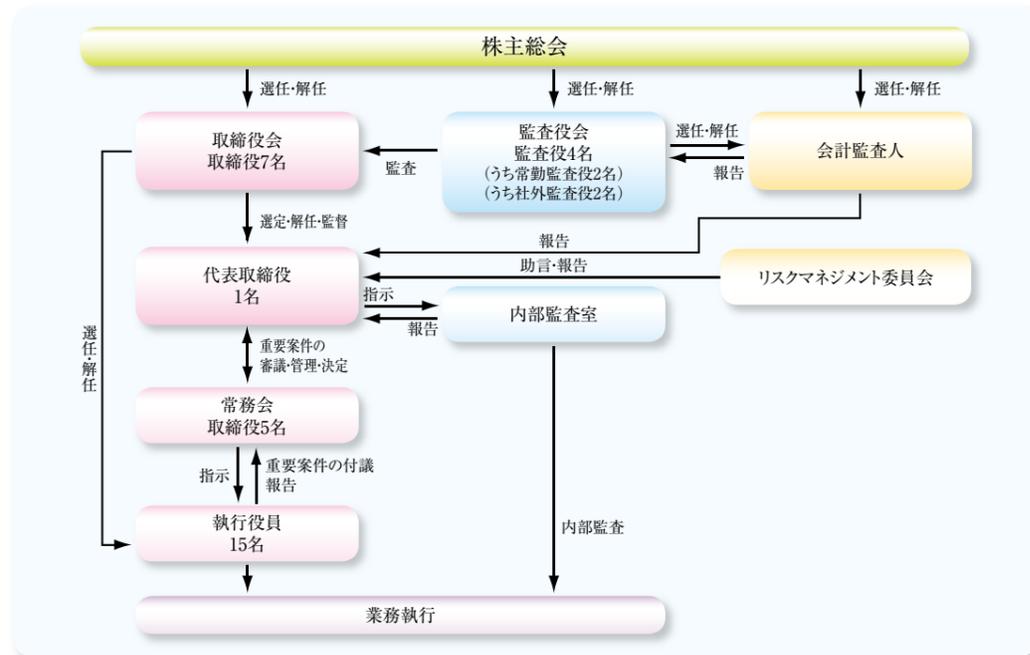
継続的に企業価値を高めていくには  
コーポレート・ガバナンスの充実が最も重要な経営課題と捉えています。

コーポレート・ガバナンスの状況

当社は継続的に企業価値を高めていく上で、コーポレート・ガバナンスの充実を最も重要な経営課題として捉えており、そのためには株主・投資家の皆様、お客様、取引先、地域社会、従業員等の当社を取り巻く様々なステークホルダーの皆様から信頼を勝ち得ることを目指す経営姿勢が重要であると考えています。

その実現に向け、当社では株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、経営体制の改革、内部統制システムの整備等の様々な方策を実現させるとともにタイムリーな情報開示により公正で透明性の高い経営体制の実現を目指しています。

- ・取締役会:7名で構成(社外取締役は0)
- ・監査役会:社外監査役2名を含む4名で構成
- ・2002年4月より執行役員制度を採用(現在15名)
- ・2005年6月より執行役員制度を改編し、取締役にも執行役員を兼務させる体制とし、全社的課題への対応力の強化を図るとともに、業務執行における責任の明確化および指揮命令系統の充実を図りました。
- ・経営会議体として全社的課題を審議するステアリング・コミッティ、戦略課題を全社的見地で審議する全社戦略会議等を設置して戦略モニタリング・コントロール機能を確保しています。
- ・内部監査:「内部監査室」を設置し、当社グループの業務活動全般に関して、業務執行が適法、適正かつ合理的に行われているかどうかを監査するとともに、会社資源の活用状況、法令・社内規程の順守状況についての監査を行っています。



内部統制システム整備の状況

2006年5月に取締役会にて「内部統制システムの構築に関する基本方針」を決議し、内部統制システムの整備を推進しています。

当社は内部統制の基本を職務分掌、職務権限、業務プロセス、その他の各種規程・基準においています。内部監査部門は業務執行部門ならびに関係会社の監査を通じてこれらの基本に則して業務が遂行されていることを確認し、改善すべき点の指摘を行っています。また、法律関係については、分野ごとに恒常的に法律事務所と顧問契約を締結した上で適法性の確保に努めています。

反社会的勢力排除に向けて

反社会的勢力を社会から排除していくことは、治安対策上重要なことであり、企業にとっても社会的責任の観点から必要であり、また、反社会的勢力が従業員を含めた企業自身に多大な被害を生じさせるものであることから、企業防衛の観点からも必要なものです。

このような観点から、当社は反社会的勢力による被害を防止するため、コンプライアンス体制及び内部統制システムの一環としての体制整備に努めています。

リスク管理体制の内容

当社のリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止し、またリスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会を設置するなど機動的な対応に努めています。

主なリスク管理に関する委員会

リスクマネジメント委員会

カワイグループ全体のリスクへの対応のために、規程類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に取り締役に報告。傘下に下記の委員会を設置しています。また、不測の事態が発生した場合には「緊急対策本部」を直ちに設置し迅速な対応と損害拡大の防止にあたります。

● 地球環境委員会

カワイグループは1994年に地球環境委員会を設置し、地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。地球環境委員会ではカワイ地球環境憲章、カワイ環境方針、グリーン調達ガイドライン、木材調達ガイドライン等を制定。また環境に関する法令の順守はもとより環境保全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

● 海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

● 中央防災対策委員会

カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

● 中央安全衛生委員会

カワイグループの従業員の安全衛生意識の高揚を図り、災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

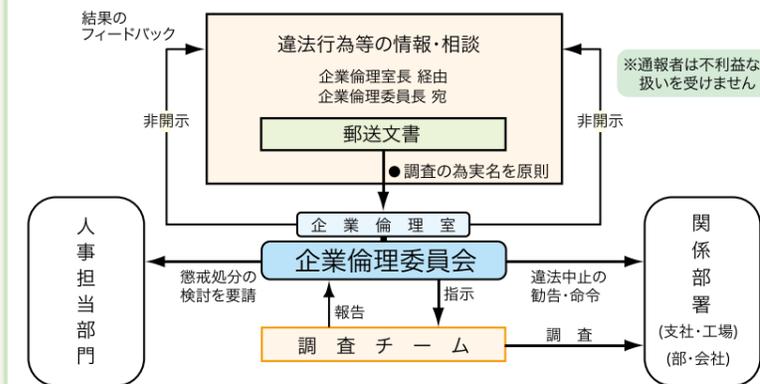
● 企業倫理委員会

コンプライアンス経営を推進するため、法令順守に加え社会的な規範をも包含したコンプライアンス要綱(カワイ倫理規範、倫理行動規程を含む)を制定するとともに弁護士等外部有識者を加えた企業倫理委員会を設置しています。また企業倫理に関する統括部門である企業倫理室を主体に、企業倫理ホットラインの運営と従業員への教育、啓蒙によるコンプライアンス意識の向上に努めています。

● 製品安全対策委員会

万が一、市場に出た当社の製品に安全上の不具合があり、それが原因でお客様の生命身体に危害が及んだり、その可能性があるかと判断されるときに、お客様への告知、行政機関への報告、製品の回収といった対策を迅速に実行し、お客様への被害を最小限に止める諸活動を行っています。

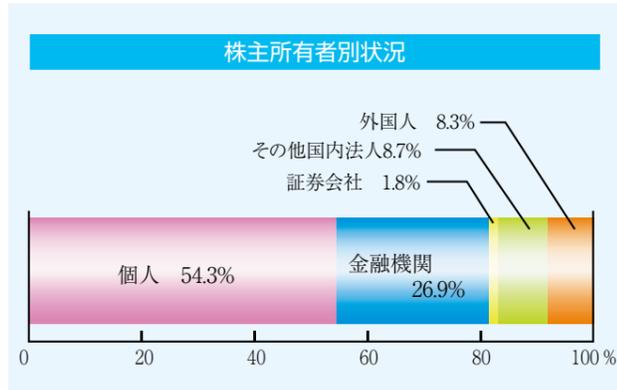
企業倫理委員会・企業倫理ホットラインの流れ



株主・投資家の皆様へのIR活動に取り組んでいます。

株主の所有者別状況

2008.3.31現在、当社の総株主数は11,376名で、個人が54.3%、金融機関・証券会社が28.7%、その他国内法人が8.7%、外国人が8.3%の株式を保有しております。



株式の状況

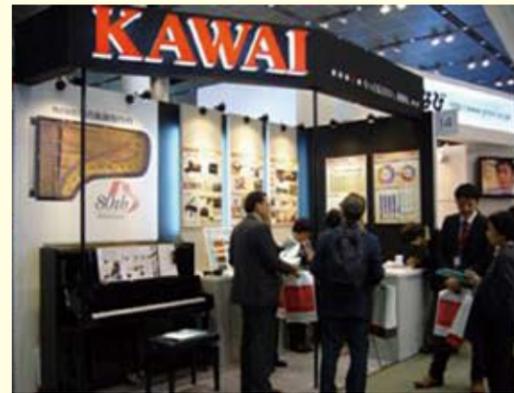
発行可能株式総数	普通株式	342百万株
発行済株式総数	普通株式	86百万株
株主総数	普通株式	11,376名

◎個人投資家対象IR説明会「ノムラ資産管理フェア」

2007年11月30日から2日間、個人投資家を対象に資産管理と投資の情報を提供することを目的とした「第10回ノムラ資産管理フェア」に出展しました。

このフェアを企業IRの場として、毎年多くの上場会社が出展しています。当社は、当社の事業展開について理解していただくため、楽器・教育関連・素材加工を3本柱とした事業紹介および業績推移をパネル展示し、「ANYTIME X」を製品展示しました。当日は、来場者へのアンケートを実施し、一般の個人投資家のご意見を多数頂きました。この結果を踏まえ、今後のIR活動に取り組んでまいります。

\*IR活動… Investor Relations 株主投資家向け広報活動



◎事業報告書

株主の皆様には、事業報告書を年2回お送りしています。直近の財務情報に加え、トップのコミットメントや当期のトピックス、事業所紹介などをお伝えしています。



情報の開示

◎IRサイト

ステークホルダーの皆様にかわいの経営戦略や財務内容を開示し適切な企業価値へと結びつける活動(IR)の手段としてホームページにIRサイトを開設しています。

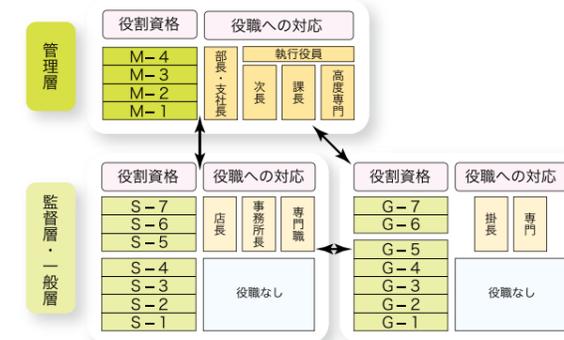


<http://www.kawai.co.jp/ir/>

社員を大切にし、明るい企業をめざします。

役割を基軸とした新人事制度の導入

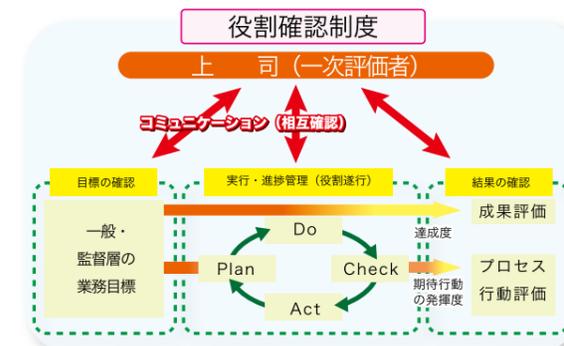
2007年4月、新しい人事制度がスタートしました。全社員を「役割」を基軸とした「資格」に格付けし、「役割資格」に応じた評価基準や給与へのつながり等を明確にすることで、評価～育成～処遇（給与・異動等）のサイクルを好循環させ、活気ある職場作りを目指しています。



将来の人材を育成する各種の研修制度、技能の次世代への伝承を行う「バトンタッチ運動」も同時期にスタートしております。



これらを支えるのは、従業員一人ひとりのなすべき事柄を上司と部下との間で確認する役割確認制度であり、コミュニケーションの良否が目的の明確化と評価の納得性を高めるカギとなると考えています。



労働安全衛生

カワイでは「安全で快適な職場環境の形成」と「健康保持増進活動の推進」を原点として次のような活動に取り組んでいます。

1. 安全で快適な職場環境の形成

- 1) 労働災害発生時に必ず労使で現認し、協力して再発防止対策に取り組んでいます。
- 2) ヒヤリハットを抽出し、KYT（危険予知訓練）等を通じて危険を先取りし、危険ゼロを目指します。

- 3) 労使での職場パトロールにより危険・不衛生状態をなくします。
- 4) メンタルヘルスケアについては、厚生労働省が策定した「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、各事業所の安全衛生委員会等において十分調査審議を行った上で「心の健康づくり計画」を策定しております。

2. 健康保持増進活動の推進

健康保険組合と体育事業部が連携し健康保持増進活動の推進に取り組んでいます。

- 1) 健康管理・健康づくりに関する情報提供、
- 2) 定期健康診断・生活習慣病検診後のフォローアップ、各種補助金（人間ドック等）の支給
- 3) 産業医等による毎月の健康相談
- 4) 無料電話相談

2007年度労働災害統計

2007年度の発生件数は23件で、昨年度より3件増加しました。うち1件が休業災害でした。度数率、強度率ともに同業の製造業の全国平均を大幅に下回っています。

\*度数率：労働時間100万時間あたりに発生する死傷者数  
\*強度率：労働時間1000時間あたりの災害によって失われる労働損失日数



音楽文化の担い手として・・・

社会貢献活動

さらに広く、より深く音楽文化を醸成するために、カワイは楽器メーカーとして優れたハードづくりを追求するとともに音楽文化の育成やレベルアップといったソフトに関する活動を、長年続けています。音楽から生まれる感動をさらに多くの人へ、より深く伝えたい。・・・カワイの熱き想いは、さまざまな音楽シーンで着実に実を結んでいます。

文化・芸術への貢献

- カワイ音楽振興会
- カワイコンサート
- 日本ショパン協会への支援
- クロイツァー記念会への支援
- 日本・ロシア音楽家協会への支援
- 日本フーゴ・ヴォルフ協会への支援
- 日本シマノフスキ協会への支援 など

カワイ音楽振興会

日本の音楽文化の普及と向上を目指して1963年に設立。海外の著名な演奏家、教育指導者を数多く招聘し、リサイタルを開催するほか、公開講座、個人レッスン、講演会など多彩な催しを企画実施しています。

カワイコンサート

日本中のより多くの方々によりよい生の音楽を。このポリシーのもと、1971年からスタートした「カワイコンサート」は既に全国各地で2千数百回以上におよぶ公演を実施しました。国際的なピアニストから新進気鋭の若手まで多彩な演奏家を招き音楽のすばらしさを広めています。また、新人にとっては一流ピアニストへの登竜門として絶好の舞台となっています。

日本ショパン協会への支援

ポーランドのショパン協会との交流の下に設立された日本ショパン協会の活動を多角的に支援。音楽交流、ショパン国際ピアノコンクールへの審査員派遣、参加者オーディション等の活動を行っています。また年間最も優れたショパン作品の演奏をしたピアニストに対し日本ショパン協会賞を贈っています。



連絡先:カワイ音楽振興会 TEL:03-3320-1671

「心とからだのハーモニー」をモットーに、全年齢の健康づくりをサポートします。

カワイ音楽教室、鍵盤演奏の確かな基礎を育む  
3歳からのグループコース「ピコルわーど」

当社が運営するカワイ音楽教室は、3・4歳児を対象としたグループコース「ピコルわーど」を新設しました。

カワイ音楽教室のグループコースでは、子どもたちの豊かな創造性を育むリトミック教育を取り入れ、音楽に合わせて弾んだり、揺れたり、体全体を使った様々な動きを経験できます。音楽を耳だけでなく、全身を使って表現することは、音楽を感じ取り演奏するための礎となります。「ピコルわーど」では、こうした子どもから自然に生まれてくる行為を大切に、それを芸術表現として昇華させるための、たくさんの音楽的ステップを取り入れています。これらの活動から、表現豊かな鍵盤演奏を楽しむ技術と、リズム感溢れる身体感覚を身に付けることができます。

「ピコルわーど」の新設により、カワイ音楽教室のグループコースは、1歳児のための「クーちゃんランド」、2歳児のための「くるくるクラブ」、3・4歳児のための「ピコルわーど」という、リトミックを柱にした4年間の一貫したコースとして捉えることができるようになりました。



「ピコルわーど」ボールを使ったレッスン

※リトミックとは

スイスの作曲家エミール・ジャック・ダルクローズ(1865～1950)によって創案された音楽教育方法で、脳や運動などの生理学の視点から研究を積み、音楽を身体表現することが、演奏をより表情豊かなものへ導くという考えを基本としている。日本には大正時代に演劇や舞踊の教育として入り、その後幼児教育で重視された。リトミックという名称の語源は、ユーリズミクス(Eu-rhyth-mics[英])、ラ・リトミック(La Rythmique[仏])、リトミック(Rhythmik[独])から由来しており、訳語としては「律動的」あるいは「韻律的」という意味である。

教育・教室としての貢献

- カワイ音楽教室・カワイミュージックスクール
- カワイこども英語教室・カワイ絵画造形教室
- カワイ体育教室・いきいき健康音楽
- カワイ音楽学園 など

カワイ音楽教室

当社が運営するカワイ音楽教室は、音楽文化の普及を目指して1956年(昭和31)に第1号教室を開設、以来50年にわたり、音楽教育を通じて多数の音楽愛好者を育成し、現在では日本全国に5,000を超える直営の教室を運営しています。レッスンコースは、1歳児を対象とした「クーちゃんランド」に始まり、「おとなのミュージックスクール」まで、年齢やレベルに合わせて多彩なコースが設定されています。

カワイミュージックスクール

平均寿命の伸長に伴い、中高年の人々の生涯学習や余暇活動に対する関心が年々高まっています。カワイでは、こうした社会ニーズに対応し、ピアノ、フルート、バイオリン、大正琴、日本唱歌など、40種以上に及ぶ大人のための音楽教室を運営しています。いずれも自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講でき、またレッスンの回数や形式が選択できるなど、個性に合ったレッスンが受けられることから、多くの受講者を集めています。

カワイ絵画造形教室「手を使い、心と頭を育てる造形活動」

カワイ絵画造形教室は、豊富な素材をふんだんに使ったさまざまな造形表現活動を通して、子どもたちが創造力や人間らしい心を育みながら「生きる力」を身につけていくことを目指します。

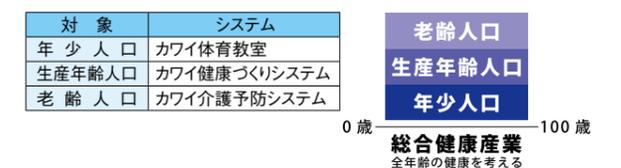
カワイ英語教室「生きた英語を体験しよう」

カワイ英語教室は、ゲームやアクションを通して、子どもたちが楽しみながら「生きた英語」を身につけます。そしてコミュニケーションの手段としての英語を通して自分を伝えたい、相手を知りたいという心を満たし、豊かな人間性を育みます。

カワイヘルスプロモーションサポートシステム

当社は、カワイ体育教室をスタートし、約40年間健康づくりのサポートを全国で展開してまいりました。この間のキャリアとノウハウを、社会に広く公開・提供したいと考えています。

未就園児から高齢者まで、楽しみながら健康の維持・増進を図り、しかも測定データや最新機器を駆使し科学的にサポートする当社独自の「カワイヘルスプロモーションサポートシステム」により総合健康産業として、さまざまなステージでの、健康づくりに役立ちたいと考えています。



カワイ体育教室

2歳児からの体育コースを中心に、器械体操、新体操、サッカー、水泳などのスポーツコースも展開。「心とからだ」をバランスよく育み、人生を健康で楽しく生きていくための基礎を身につけます。



カワイ健康づくりシステム

2008年度4月より、医療保険者(国民健康保険・健康保険組合など)に対して特定検診・特定保険指導が義務付けられます。これは「腹囲」「血圧」「脂質」「喫煙の有無」を調査し生活習慣病原因となるメタボリックシンドロームを早期に発見し改善を図ることで、医療費の高騰を抑えることが目的です。カワイはこれまでに培ったノウハウをベースに、特定保険指導をトータルに支援するシステムを開発しました。

カワイ介護予防システム

カワイと筑波大学との共同開発による、科学的根拠にも基づくプログラムの筋力トレーニングと遊びプログラム(調整力)を複合した2ウェイ方式にて支援・介護を必要としない健康寿命を伸ばすことをねらいとしています。参加者の変化を随時把握する「体力測定」を導入。



地域活動への参加

各サイト及び各支社それぞれにおいて、地域活動へ参画しています。積極的に地域住民及び多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。

竜洋工場

1.工場見学

地域の学校の環境教育の一環としてなど、竜洋工場では多くの工場見学者を受け入れています。今年度は環境に特化した見学は29団体969名でした。工場見学とともに、環境社会報告書の配布も行っています。その他の目的を含め見学者総数は2,825名でした。



森の中の緑の工房

竜洋工場は、森の中の緑の工房（緑地を含んだ環境施設面積51,112㎡敷地の30.4%）と敷地内緑地の一般開放など地域との交流、貢献をしています。

2.工場の森を「さんぱい探偵団」探索

静岡県産業廃棄物協会主催の親子で産業廃棄物を学ぶ教室「さんぱい探偵団」が、2007年8月3日竜洋工場で開催されました。親子14組 39名の参加者が、ピアノ製造工程の見学とともに「森の中の緑の工房」竜洋工場の緑のなかで樹木の葉や木の実採取を取り入れたウオークラリーをして過ごしました。



参加者の感想

私は、5才から音楽教室に通っていて、ピアノに興味があります。調りつの時、調りつのおじさんのかけからピアノの中を見たことがありますが、どうなっているのかわかりませんでした。工場見学では、ピアノについて女の子の人に説明してもらいました。（中略）少しピアノのことが分かったような気がします。工場は、たいへんきれいで、ゴミは少なかったです。そして、公園の中にもいるみたいです。引そつのおじさんたちが、クイズをやってくれて、たいへん楽しかったです。（以下省略）



3.「浜名湖クリーン作戦」

毎年6月の第一日曜日に実施され、毎年工場として参加しています。浜名湖沿岸市町にとって6月の環境月間の定例行事として恒例化しています。



本社

中国四川省の大規模地震に対する義援金について

当社およびカワイグループでは、2008年5月23日、中国・四川省における大規模地震の被災者の皆様に対して、30万元（約450万円）の義援金を、中国紅十字会を通して寄付することを決定し、同日、当社関係会社である河合貿易（上海）有限公司より、中国紅十字会に渡されました。これに伴い、丁寧な感謝の言葉とともに、紅十字会発行の荣誉证书（感謝状）を授与されました。

被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

カワイハイパーウッド

地元小学生の夏休みの課題「地域で自慢できるもの」探しのテーマとして、地元小学生が工場を訪れました。工場での説明を受け、学校で発表されました。カワイハイパーウッドは、地域に開かれた工場を目指しています。



メルヘン楽器

メルヘン楽器では環境方針に基づき、地域環境活動として、毎月、地域の主要道路の清掃活動を行っております。また、拡大キャンペーンとして8月に地元の人たちと一緒に川遊びスポット（吉川）の美化活動を実施しました。



前橋ショップ

前橋ショップは、長年にわたり教育矯正活動に参加しており、2007年7月に法務省矯正管区長より感謝状を授与されました。前橋市の赤城少年院より日ごろラジオを聴く以外には心を癒す機会のない少年達に生演奏を聞かせてほしいとの要望を受け、前橋センター教室の音楽教室講師により、2000年8月より毎年2回のコンサートを行っています。

1回のコンサートに講師2名交代でボランティアとして参加し、電子楽器を持ち込み約45分のステージを行っています。



カワイ精密金属

カワイ精密金属 松本工場では、毎年6月と11月の年2回工場内と周辺環境維持活動として清掃活動を行っています。2007年11月13日の清掃活動には、全員参加により、工場内の緑地とともに一般道路の歩道・植え込みの除草・剪定・ゴミや落ち葉の回収を行いました。「美しい環境作り」という工場の理念を全員が持ち続けるとともに、周辺地域の環境美化のために貢献しております。



カワイインドネシア

2007年12月に実施しましたインドネシア植林事業の現地窓口として、地元の県知事をはじめ植林地帯の村人と調整して植林事業を行うことができました。



多くの皆様とのコミュニケーションを大切にします。

お客様窓口

◎CS推進室

お客様との相談窓口をカワイQSS(Quick Service Station)と名づけ、誠実な対応と迅速な対応を行うべく1971年よりその組織を発足させ活動しています。カワイQSS組織は事業企画部CS推進室に本部を置き各支社に支部を配置しカワイのお客様相談窓口としての役割を果たしています。

お客様からの苦情対応、相談の受付等を行っています。

連絡先:お客様相談室 TEL:053-457-1311

◎調律サービス部

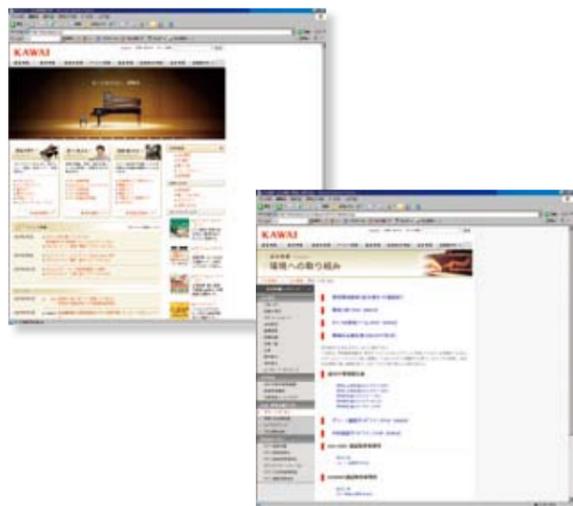
お客様のピアノの主治医「調律師」の技術集団。「ピアノは生きています」というと驚かれるでしょうが、ピアノには木材・羊毛・皮革など多くの天然素材が使われています。これらの材料はとて敏感で、温度や湿度の影響をまともに受けてしまうのです。またピアノの大部分を占める木材は常に呼吸をしている、まさに「生命体」なのです。そしてピアノほどデリケートなメカニズムを持つ楽器は他に無いとまで言われています。そこで私達が健康管理をするようにピアノにも「調律」という名のメディカルチェックが必要なのです。

カワイの調律師たちは厳しい訓練を受けた技術者で、ピアノの主治医として、ピアノを常にベストコンディションに保つためのケアをしています。

連絡先:調律サービス部 TEL:053-457-1253

ホームページでの開示

カワイのホームページではトップページから「会社情報」へ。「会社情報」から「環境への取り組み」に進んでいただけます。過去の環境報告書もご覧いただけます。



情報発信

ステークホルダーの皆様、カワイの環境等への取り組みの内容や環境パフォーマンスの成果、環境への配慮などを広く知っていただくため、環境報告書の継続的発行やホームページによる情報の開示等をはじめとして、地域にお住まいの皆様方、NPO・NGOの方々とのより良い信頼関係の確保、双方向のコミュニケーションの拡大に努めます。



環境報告書の継続的発行

カワイでは2001年より毎年、環境報告書を発行しています。

2004年からは社会性側面についても記載し多くの皆様に持続可能な社会の実現に向けたカワイの活動を知っていただくよう情報提供を続けてまいります。



事業場	項目	単位	1990	2003	2004	2005	2006	2007	増減率
			参考	基準年	基準年	基準年	基準年	基準年比	
竜洋工場 静岡県磐田市 事業内容:ピアノ製造 敷地面積:168,218㎡	電気	GJ	30,829	34,186	38,305	39,950	45,646	53,648	17.5%
	燃料	GJ	3,932	13,034	16,286	19,111	17,012	17,313	1.8%
	水	千㎡	1,568	33.4	36.2	34.3	34.2	40.8	19.3%
	化学物質	ton		30.2	33.7	36.6	28.2	30.9	9.8%
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	1,991	2,824	3,284	3,575	3,743	4,209	12.4%
	化学物質	ton		21.1	21.6	23.0	12.7	12.2	-3.9%
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton	89.3	113.4	152.5	38.6	31.8	23.5	-26.1%
9.0	266.0	418.1	444.4	497.9	602.4	21.0%			
舞阪事業所 静岡県浜松市西区舞阪町 事業内容:ピアノ部品製造 敷地面積:42,218㎡	電気	GJ	70,512	46,110	49,472	46,352	37,229	13,916	-62.6%
	燃料	GJ	24,321	11,243	11,218	11,719	8,164	3,754	-54.0%
	水	千㎡	1,762	52.4	49.2	39.4	34.1	5.5	-83.9%
	化学物質	ton		42.1	40.2	33.8	33.3	27.7	-16.8%
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	5,641	3,360	3,545	3,407	2,649	1,041	-60.7%
	化学物質	ton		10.0	8.5	4.5	6.9	9.1	31.9%
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton	348.0	176.2	153.6	64.0	68.3	29.2	-57.2%
93.0	768.3	1,040.7	915.8	736.8	274.3	-62.8%			
カワイハイパーウッド 静岡県浜松市東区中郡町 事業内容:自動車内装部品製造 敷地面積:26,817㎡	電気	GJ	14,787	10,828	15,404	24,003	21,629	21,726	0.4%
	燃料	GJ	11	3,755	5,945	7,725	6,219	6,960	11.9%
	水	千㎡	28.6	11.4	12.6	14.7	10.6	10.1	-4.7%
	化学物質	ton		24.1	37.0	58.7	47.6	50.6	6.4%
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	1,250	869	1,279	1,883	1,645	1,702	3.5%
	化学物質	ton		7.2	9.6	16.2	12.1	14.1	16.8%
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton	218.2	94.2	114.1	188.7	78.5	81.6	3.9%
32.3	14.1	12.4	47.2	116.9	101.8	-12.9%			
メルヘン楽器 静岡県周智郡森町 事業内容:電子楽器製造 敷地面積:11,583㎡	電気	GJ	3,914	3,247	3,482	3,397	3,299	3,251	-1.5%
	燃料	GJ	74.7	16.1	14.8	14.7	11.1	11.3	1.8%
	水	千㎡	0.60	3.50	3.83	2.70	3.02	2.70	-10.6%
	化学物質	ton							
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	223	182	195	190	184	182	-1.1%
	化学物質	ton							
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton	7.3	5.7	5.8	4.0	11.2	5.3	-52.7%
0.0	69.8	85.9	75.3	114.5	63.9	-44.2%			
カワイ精密金属 浜松工場 静岡県浜松市北区新都田 事業内容:金属部品製造 敷地面積:26,817㎡	電気	GJ		29,265	31,883	34,274	38,671	38,528	-0.4%
	燃料	GJ		18.0	14.9	12.6	14.1	12.8	-9.2%
	水	千㎡		21.7	20.6	21.4	20.5	17.8	-13.2%
	化学物質	ton		25.6	27.9	26.5	52.6	49.7	-5.5%
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>		1,630	1,776	1,909	2,154	2,145	-0.4%
	化学物質	ton		1.3	1.4	1.3	2.6	2.5	-4.9%
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton		57.2	53.9	66.4	54.3	27.8	-48.8%
			39.1	33.8	42.5	39.1	32.5	-16.9%	
カワイ精密金属 松本工場 長野県松本市 事業内容:金属部品製造 敷地面積:14,612㎡	電気	GJ	57,070	35,718	39,511	47,565	48,784	56,882	16.6%
	燃料	GJ	7,132	6,071	5,373	6,359	6,350	7,350	15.7%
	水	千㎡	42.1	91.4	92.0	98.9	100.3	74.6	-25.6%
	化学物質	ton		17.1	26.7	39.0	55.8	58.8	5.4%
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	3,674	2,417	2,579	3,097	3,165	3,686	16.5%
	化学物質	ton		0.8	1.3	2.0	2.8	2.9	3.9%
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton		9.1	9.0	9.9	12.1	16.9	39.7%
			60.3	57.8	79.8	93.7	100.4	7.2%	
本社 静岡県浜松市中区寺島町 事業内容:事務、研究開発 敷地面積:6,784㎡	電気	GJ		10,086	10,418	10,032	9,781	12,096	23.7%
	燃料	GJ		1,751	1,588	1,858	1,215	1,227	1.0%
	水	千㎡		11.9	11.7	12.3	9.7	8.7	-10.3%
	化学物質	ton							
	CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>		677	685	682	623	752	20.8%
	化学物質	ton							
	廃棄物 焼却・埋立 廃棄物 再資源化	ton		10.1	1.7	0.0	0.0	0.0	
			28.9	29.0	45.6	42.2	32.9	-22.0%	

環境法規制 順守状況

順法への対応においてISOマネジメントシステムを採用している事業場については順法評価結果を内部監査にて確認しています。その他の事業場(カワイ精密金属、ハイパーウッド)の順法確認は環境推進室が実施しています。また環境に関する法規制の訴訟・罰金・科料はありませんでした。また、関係当局からの指摘も過去5年間ありません。

第三者意見としてのコメント

静岡大学工学部物質工学科  
生物・環境工学講座 教授  
中崎清彦様



本報告書は、昨年度の指摘を入れて内容が大きく改善されており、PDCA（計画・実行・評価・行動）のサイクルが適正に機能していることを窺い知ることができるものとなっている。河合楽器製作所の、環境に配慮した事業活動でありたいとした真摯な姿勢が伝わってくる内容となっている。

環境経営に関する記述では、主な環境目標として掲げている「地球温暖化防止」、「資源循環活用」いずれについても高い達成率となっており、また、環境経営指標は、長期的な減少傾向が見て取れることから、環境に対する熱心な取り組みが高く評価される。しかしながら、2007年から2009年度に向けての3カ年計画の目標値と、その中における2007年度の目標値の関わりが必ずしも明確となっていない。特にCO<sub>2</sub>排出量では京都議定書の基準年である1990年度からすでに20%もの削減を達成しているが、2007年から3カ年でさらに15%減という高い目標を掲げている。この目標に対して初年度である2007年度の削減率の目標値が3%というのは適正といえるのか、また廃棄物削減量が3カ年で15%減を目標としたときに初年度でこれ以上の削減率を達成できているが、目標は適正であったのかについて疑問が残る。目標値は十分に吟味されたものである必要がある。

事業活動にともなう環境配慮では、温暖化対策、廃棄・再資源化についての取り組みが記載されている。従来からおこなってきた植林活動の一層の推進に加えて、主な製品のLCAなどが試みられている。また、特筆すべきは、「産業廃棄物適正処理推進功労者に対する静岡県知事褒賞」を受賞したことである。この賞は、産業廃棄物の減量化、再生利用、これらの技術開発などの項目について他の模範になる功績を挙げている法人に贈られる栄誉ある賞である。本受賞は同社が1997年9月、楽器業界としては世界初めてとなるISO14001認証を取得して以来、積極的な廃棄物減量化と廃棄物の適正処理に継続的に取り組んできた証といえることができる。

報告書は年々、体裁が改良されてきており、読みやすくするための工夫が見て取れる。大きめの文字の使用、図やカラーも多用されており、読みやすさ、わかり易さのために配慮されたものとなっている。また、社会性についての報告も充実し、本年度は特に創立80周年記念行事に関する記述も加えられているために大部となっている。紙媒体による報告書は、視認性が高く、また誰もが見たいときに見ることができる資料として優れているが、紙資源の節約、電子媒体の普及した今日の事情を考慮すれば、報告書の要約は紙媒体で、詳細は電子媒体でというように、報告書の媒体についても検討する時期にきているのではないかと思われる。今後の報告書がいずれの形態を取るにせよ、継続的な取り組みが最も重要であり、本報告書の取りまとめが、さらに高いレベルをめざした取り組みに繋がることを期待している。

第三者意見をいただいて

80周年の記念の年を迎え、これまでの環境、社会貢献に対する取り組みを評価して頂きました。新しい10年に向けさらに活動を継続、発展させてまいります。文字のサイズを大きくし、図、写真を多用した、わかりやすく伝えることの取り組みを評価して頂きました。今回、ご指摘を頂きました目標値の適正性につきましては、見直しを行ってまいります。また、報告書の形態につきましても今後検討してまいります。

カワイ 環境社会報告書2008 へのご意見・ご感想

該当項目の□にチェックをお願いします。

- Q1 環境社会報告書をどのようなお立場でお読みになられましたか？
- |                                    |   |  |
|------------------------------------|---|--|
| <input type="checkbox"/> 投資家・株主として | <input type="checkbox"/> 河合楽器と取引関係にある   | <input type="checkbox"/> 製品のユーザー       |
| <input type="checkbox"/> 政府・行政機関   | <input type="checkbox"/> 環境NGO・NPOとして   | <input type="checkbox"/> 報道機関          |
| <input type="checkbox"/> 企業の環境担当者  | <input type="checkbox"/> 学生             | <input type="checkbox"/> 環境専門家・教育者・研究者 |
| <input type="checkbox"/> 事業所近隣の方   | <input type="checkbox"/> カワイグループの従業員・家族 | <input type="checkbox"/> その他( )        |
- Q2 環境社会報告書を何でお知りになりましたか？
- |  |                                       |                                   |
|--|---------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ホームページ（当社・当社以外） | <input type="checkbox"/> 当社からの送付      | <input type="checkbox"/> 環境セミナー等で |
| <input type="checkbox"/> 新聞・雑誌           | <input type="checkbox"/> 営業マン・教室・先生から | <input type="checkbox"/> その他( )   |
- Q3 この環境社会報告書をお読みになってどのように感じになりましたか？
- |             |                                |                             |                                 |
|-------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 報告書のわかりやすさは | <input type="checkbox"/> よくわかる | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい |
| 内容          | <input type="checkbox"/> 充実    | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない  |
| 情報量         | <input type="checkbox"/> 多すぎる  | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 不足である  |
- Q4 興味をもたれた記事、印象に残った項目は？(いくつでも)
- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 表紙                 | ◎社会性報告                                  |
| <input type="checkbox"/> カワイの事業と会社の概況       | <input type="checkbox"/> 経営計画/第2次中期経営計画 |
| <input type="checkbox"/> 編集方針               | <input type="checkbox"/> コーポレートガバナンス    |
| <input type="checkbox"/> 社長コメント/経営の理念       | <input type="checkbox"/> 内部統制システム       |
| <input type="checkbox"/> カワイグループのあゆみ        | <input type="checkbox"/> リスク管理体制        |
| ◎ 創立80周年記念報告                                | <input type="checkbox"/> 株主・投資家の皆様とともに  |
| <input type="checkbox"/> コーポレート・デザインの刷新     | <input type="checkbox"/> 組織で働く全ての人との関係  |
| <input type="checkbox"/> 創立80周年記念行事         | <input type="checkbox"/> お客様との関係        |
|   | <input type="checkbox"/> コミュニケーション      |
|   | <input type="checkbox"/> 地域活動への参画       |
|   | <input type="checkbox"/> 情報発信           |
| ◎ 環境報告                                      |   |
| <input type="checkbox"/> カワイ環境方針/推進体制       |   |
| <input type="checkbox"/> 2007年度の環境目標と実績及び目的 |   |
| <input type="checkbox"/> 事業活動に伴う環境配慮        | ◎資料編                                    |
| <input type="checkbox"/> 温暖化対策              | <input type="checkbox"/> 環境負荷サイト別一覧     |
| <input type="checkbox"/> 廃棄・再資源化            | <input type="checkbox"/> 第三者意見書         |
| <input type="checkbox"/> グリーン調達             |   |
| <input type="checkbox"/> 環境配慮製品             |   |
| <input type="checkbox"/> 環境パフォーマンス          |   |
| <input type="checkbox"/> マテリアルバランス          |   |
- Q5 環境社会報告書の内容についてのご意見や、改善するためのご提言をいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下欄をご記入下さい。  
(個人情報に関しましては、ご本人の承諾がない限り第三者に開示することは一切ございません)

お名前	ふりがな		
		男・女	年齢 歳
ご住所 (勤務先・ご自宅)	〒 -		
ご連絡先	TEL E-mail	FAX	
ご職業 (勤務先・部署・役職名)			

**FAX 053-457-1250**  
〒430-8665 浜松市中区寺島町200番地 株式会社 河合楽器製作所 事業企画部 環境推進室 行

# KAWAI

もっと伝えたい、感動を。

## 株式会社 河合楽器製作所

●お問合せ先

河合楽器地球環境委員会

事務局：事業企画部 環境推進室

〒430-8665 静岡県浜松市中区寺島町200番地

TEL 053-457-1252 FAX 053-457-1250

E-mail: kankyo@kawai.co.jp



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% [www.team-6.jp](http://www.team-6.jp)

カワイグループは「チームマイナス6%」に参加しています。

